

事業評価シート【新規事業-1】

事業名	RPA導入事業			基本計画	節	6	総合戦略	基本目標	
事業コード					テーマ	4		施策の方向	
課係名	総務課総務情報係	内線			施策	2		施策	
担当者氏名		職名			主な施策展開	2		整理番号	

事業実施の経緯(現状)	市民ニーズの多様化、業務の複雑化により、処理すべき業務が増大しており、各職場からは人員増の要望が寄せられているが、配置できる人員は限られているのが実情である。
-------------	---

めざす姿・ねらい(目標・目的)	定型的な入力作業など、機械のできる処理は機械に任せ、職員は人間でしかできない業務に注力することにより、職員の働き方改革、業務の効率化及び市民サービスの向上を図る。
-----------------	---

実現するための課題(問題点)	<ul style="list-style-type: none"> ・RPA(自動入力)の導入 ・AI-OCR(読み取り)を効率的にできるようにするための帳票類の改訂
----------------	--

具体的な取組(解決策)	<ul style="list-style-type: none"> ・RPA(自動入力)の導入 ・規則等の改正(帳票類の改訂)
-------------	--

主要指標	指標の種類		指標及び目標値(目標)の考え方	目標値(目標)		
	名称			5年度	6年度	7年度
■活動指標	①	RPAシステムの稼働率	RPAシステムが稼働する部署の割合			50.0%
	②					
■成果指標		業務の削減時間	RPAシステムの導入により削減された業務時間の割合			15.0%

実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	法令計画名	① 茂原市DX推進基本方針	②	
			③	④	
		補正予算 要求理由			

事業継続	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 複数年度:無期	後年度負担	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	<input type="checkbox"/> 複数年度:有期[始期 ~ 終期]		内容	RPAシステム利用料

事業費の積算(千円)	年度	事業内容	事業費			人工数	事務スケジュール	
			国県	市債	その他		年月	内容
	5年度	RPAシステムの実証実験 RPAシナリオの作成	事業費				事務スケジュール	R5.4 RPAシステム実証実験 RPAシナリオの作成
			国県					
			市債					
			その他					
				一般財源	0			R7.4 RPAシステムの導入
	6年度	RPAシステムの実証実験 RPAシナリオの作成	事業費					
			国県					
			市債					
			その他					
				一般財源	0			
	7年度	RPAシステムの導入	事業費	1,320				
			国県					
市債								
その他								
			一般財源	1,320				

事業評価シート【新規事業-2】

項目別評価	1. 事業の必要性		<ul style="list-style-type: none"> ・社会環境や市民ニーズと整合があるか。 ・市が事業を行うことについて妥当であるか。
	評価		◎評価理由(上記の観点などを参考にしてください)
	A	A. 必要性が高い B. 必要性が認められる C. 必要性について検討が必要である	県内17自治体でRPAシステムを導入しており、デジタル技術の活用による業務効率化と職員の働き方改革に努める必要がある。 (R4.3月時点導入済自治体：千葉市、市川市、船橋市、木更津市、松戸市、野田市、佐倉市、習志野市、市原市、流山市、八千代市、我孫子市、鴨川市、君津市、浦安市、印西市、南房総市)
	2. 事業の有効性		<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画基本計画の施策の達成にどのように寄与するか。 ・ほかの事業と関連できる場合、より有効に働く面はあるか。
	評価		◎評価理由(上記の観点などを参考にしてください)
	B	A. 有効性が高い B. 有効性が認められる C. 有効性について検討が必要である	定型業務におけるRPAによる自動入力業務は業務効率化に資する部分が多いが、その前段階としてのシナリオ作成に時間がかかるため、実証実験により導入可能性を検討しながら、先進自治体の事例等を参考に本市に適合したシナリオを作成する必要がある。
	3. 事業の効率性		<ul style="list-style-type: none"> ・投入したコストに見合った成果があがる見込みがあるか。 ・将来的なコストの増加・増大の要因はあるか。
	評価		◎評価理由(上記の観点などを参考にしてください)
	A	A. 効率性が高い B. 効率性が認められる C. 効率性について検討が必要である	令和3年度において千葉県が実証実験を行った中では、作業時間が最大で43%削減された事例もあることから、職員の作業負担を軽減し、人間でしかできない業務に注力できるようになることが期待できる。
	4. 財源確保の見通し		<ul style="list-style-type: none"> ・国・県補助等の見通しはどの程度まであるか。 ・財源確保のため、他の事業を縮小又は廃止できる可能性はあるか。
	評価		◎評価理由(上記の観点などを参考にしてください)
	A	A. 見通しがある B. 一部見通しがある C. 見通しがない	単純作業等のために会計年度任用職員を配置している部署においては、作業を自動化することにより、職員の人件費の一部をRPA事業費に振り替えることができ、財源を捻出できる。

総合評価	■実施計画における位置づけ、財政状況による実現性		
	評価		◎評価理由
	C	A. 計画どおり事業を実施 B. 一部改善をした上で実施 C. 実施しない	施策「行政改革の推進」に資する事業ではあるが、導入に要するコスト(費用・職員負担)と得られる効果について、実証実験によって更なる精査が必要である。
	■政策調整会議による評価		
	評価		◎評価理由
	B	A. 計画どおり事業を実施 B. 一部改善をした上で実施 C. 実施しない	実証実験中に活用できる業務について十分調査するとともに、導入後のメリット・デメリットなどの効果について精査を行うこととする。
■庁議による方針			
評価		具体的な方向性	
A	A. 計画どおり事業を実施 B. 一部改善をした上で実施 C. 実施しない	担当課の提案どおり実施するものとする。	